

「食い込みの良い 後継牛づくり」を学ぶ



▼プロジェクターを使った研修
左端が上川先生

三原市酪農女性部(岡田吹子部長)は、上川美鶴先生(東広島家畜診療所)を講師に招き、「食い込みの良い後継牛づくりを目指して」と題した勉強会を開催した。上川先生は「やはり、子育て(育成)はお母さん方が担っておられるところが多いようで、その役に立てれば・・・」との語り口から講義を始められ、七つの項目にポイントを置いて、胃袋の秘密・哺育に欠かせない三本柱・育成期から分娩準備期の管理など「食い込みの良い後継牛づくり」に触れ、分かり易い解説に対して会員らは熱心に聞き入っておられた。良い後継牛が次々と成牛に上がってくれば酪農経営も面白みが生まれることから、今回の研修が活かされることを期待したいものである。

ひょうたんを贈呈し安全祈願

神石地域酪農生産振興協議会(河上康則会長)は第二十三年度総会を開催した。

河上会長は「今期は不慮の事故で会員や会員の家族が亡くなられ、寂しくなりました。また、震災の影響で資材や飼料も影響を受けて厳しい。協議会会員も高齢化の傾向にはあるが、みんなで前進し頑張りましょう」と挨拶された。

来賓の神石高原町産業課長からは「高齢化・後継者不足によって会員も九名から七名に減少したが、この七戸で酪農を守って頂きたい。町としても精一杯協力したい」と祝辞を述べられた。東部畜産事務所からは防疫体制への注意喚起や暑熱対策が説明され、西中晃参事(広酪)からは最近の酪農情勢や、管内二件の組合員の不慮の事故へのお悔やみの言葉とともに、平素の組合運営への理解と協力への感謝と行政から酪農家に対する引き続きの支援がお願いされた。

総会は事務局によって進められ、上程議案の全てを可決承認した。その後の懇親会は夫婦同行で行われ、不慮の事故によって廃業された西田健二さんの奥様に



会長から記念品が贈られ、奥様からは「主人はこのような席が大変好きで、今日もこの場に来て喜んでいてはと思います。また、皆さんに助けて頂き感謝しております」と御礼の言葉が述べられた。

西中参事は自宅からひょうたんを持参し、「ひょうたんは縁起物で、二度とこのような事故が起きないように、悪を封じ込めて欲しい」と、河上会長にひょうたんを手渡した。乾杯は富井政樹常務(山陽乳業株)の発声で開宴し、久々に会員らに笑顔が戻った親睦会となった。

● 神石・福山地域酪農女性部

6 / 27 ~ 28 城崎温泉

神石・福山の交流視察研修 天の橋立の絶景に感動

神石酪農女性部(人江さよ子部長)と福山地域酪農女性部(持田タツ子部長)は、地域間交流を目的とした城崎温泉一泊研修を企画した。

昨年は口蹄疫発生の影響を受けて延期。現役の酪農家が減少する中であって酪農家OBにも声を掛け参加者を募り、十二名が参加され楽しい二日間を過ごした。

天の橋立では天気が良く、大小八千本の松並木、全長三・六kmの飛龍観の素晴らしい眺めを一望し、日本三景と呼ぶにふさわしい自然文化財を、童心に戻って股のぞきで楽しんだ。

神石地域では不慮の事故が続いたことから、沈んだ気持ちにひとときの元気を取り戻させてくれた研修旅行であった。



● 甲奴郡酪農組合

7 / 1 出雲大社分院

会員と乳用牛の無病息災を願う

甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長)は、出雲大社分院(三次市三良坂町)で恒例の畜魂祭を開催。

今年とは候不順で牧草の刈り取りや植え付けが遅れ、参加者が10名と少人数ではあったが、牛の健康と酪農家の無病息災を祈願した。

その後、三次市内での親睦を深める会食の場では、隅屋寒三専務(広酪)から最近の酪農情勢を含めた挨拶が行われ、豊富な話題で盛り上がり、和気藹々の中で親睦を深めた。



● 庄原みるくの会

7 / 1 鞆の浦 ホテル鷗風亭

鞆の浦・海の幸を満喫 日帰り旅行でリフレッシュ



庄原みるくの会(大田美鈴会長)は、会員七名が参加して日帰り小旅行を行った。大田会長は「酪農家が減って、厳しい状況が続いていますが一緒に頑張ります。今日もしっかりリフレッシュして下さい」と挨拶され、雨であいにくの天候ではあったが、沢山食べて、笑って、日頃の疲れを癒されていた。参加者は少なかったが、毎年こうした会を続けていこうと口々に話され、帰路の車内では「さあ!頑張るぞ!」と意気込みを新たにされていた。